

# 下野市立細谷小学校

## 1 学校課題

自ら学び、考え、表現できる児童の育成  
～わかる楽しさを味わえる授業の工夫・改善～



## 2 研究計画

### (1) 主題設定の理由

昨年度は、児童の主体性を伸ばしながら、確かな学力の定着・向上を目指し、児童の学びをより深いものとなるよう研究を進めてきた。特に、児童の見方や考え方が多様になる言語活動を充実させたり、学習規律を身に付け、学びに向かう姿勢を高めたりすることで、自ら考え、課題解決できる力を向上させた。しかし、年度末の学力調査の結果を見ると、知識及び技能を適切に組み合わせ、それらを活用しながら問題を解決していくために必要となる「思考力」に課題のある学年が少なくなく、児童の深い学びにつながる指導は十分とは言えない。また、日頃の授業の様子から、筋道立てて自分の考えや思いをもつことやそれを伝えたり説明したりすることにも課題が見られた。

そこで、本年度は昨年度までの研究を継続させ、児童の主体性をさらに伸ばしながら、考えや思いを表現できる児童の育成に努めたい。そのためには、分かる楽しさを味わえる授業の工夫改善による知識及び技能の定着が必要であると考え。さらに、確かな学力の向上・定着を図るため、授業と家庭学習との関連についても研究していく。

### (2) 研究の仮設

分かる楽しさを味わえる授業の工夫をすることで、基礎的な知識及び技能が定着し、自ら学ぼうとする意欲が高まり、考え、表現する力を伸ばすことができるであろう。

## 3 研究内容

### (1) 研究での主な実践内容

#### ①分かる楽しさを味わえる授業づくり

- ・関心意欲を高めたり、必要感や有用感をもたせたりするため、児童の意見や気付きから学習課題をつくった。
- ・学習計画を立て、単元のゴールを設定することで、何をどのように学習するかを明確にした。
- ・基礎・基本の定着を図るために、「ワークシートを活用する」「繰り返し指導する」「タブレット端末やデジタル教科書等の ICT を活用する」などに取り組んだ。

#### ②表現する力の育成



- ・それぞれの教科で、発表や話し合いの話型、説明の型、発表で使うとよい言葉などを適宜示すことで、自分の考えを表現できるよう支援した。また、書く活動では、キーワードや文末表現、重要語句などを提示し、表現力を高められるようにした。
- ・業間活動で連想ゲームやしりとりなどのことば遊びをしたり、絵を見てその様子を文で表す練習をしたりして、語彙を増やす工夫をした。

#### ③学びに向かう集団づくり

- ・学習規律の中の重点を決め、日常的な指導をした。  
(学習 4 つのやくそく ①姿勢 ②机の上 ③聴く ④返事)
- ・ペアやグループ活動を効果的に取り入れ、自分の考えを伝え合い、互いに高め合う場を設けた。
- ・家庭学習の習慣化を図るとともに、授業とつながりのある自主学習となるような課題を提示した。



(2) 研究授業を通した主題への取組

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
6/30	1年	国語「大きなかぶ」 	<p>①挿し絵やセンテンスカードの利用 視覚的な手掛かりを示すことで、お話の内容の大体を捉えやすくした。</p> <p>②役割読みや簡単な動作化の活動 簡単な動作化の活動によって、場面や人物の様子をイメージできるようにした。音読や動作化をしながら、場面の様子を考えたり、登場人物の行動や気持ちについて想像を膨らませたりすることに重点を置いた。</p> <p>③「問い」の工夫 問いを選択型にして、やってみよう、考えてみよう、分かりそうだなという学びの第一歩を踏み出すことができ、主体的に参加できるようにした。</p>
11/8	2年	国語「馬のおもちゃの作り方」 「おもちゃの作り方をせつめいしよう」 	<p>①写真の利用 児童がおもちゃを作った際の手順を写真に撮っておき、それらを並べ替えることで順序を意識して書けるようにした。</p> <p>②短冊カードの工夫 ワークシートを短冊状に細かく分けることで書いた文章の並べ替えをしやすくし、文章の順序を考えさせた。また、短冊を色分けすることで、並べ替えた際に自分と友達の違いが分かりやすくなるようにした。</p> <p>③学習課題の工夫 生活科の学習で取り組んだおもちゃの作り方の手順を一年生に分かりやすく説明するという課題を設定した。また、実際の活動として、生活科で一年生と一緒に遊ぶ場面、一年生に作り方を説明する場面を設定した。</p>

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 研究の成果

- ①2回の授業研究会を通して、学習計画を立てるときに、児童の思考に沿っているか、自己決定の場はあるかなどを考えるとより実態に即した学習になることが分かった。また、単元のゴールや目的意識を明確に設定することで、意欲的に学習に取り組めるよう工夫ができた。
- ②書く活動では、各教科の特性に合わせて、キーワードや文末表現、重要語句などを提示したり、家庭学習で作文、日記を多く取り入れたりすることで、書く機会を増やし書くことへの抵抗を少なくすることができた。
- ③発表やまとめの活動で、タブレット端末を効果的に活用したことで、児童の意欲を高めることができた。また、話すこと、書くことの力を伸ばすことにもつながっている。
- ④ペアやグループ活動で意見を伝え合ったり、問題を解決したりした後、全体で共有することで、考えを深めることができた。また、少人数学級なので、一人のつぶやきから、その意見を広げられるよう、教師がコーディネートすることでも、対話からの考えの深まりにつながっていた。



### (2) 研究の課題

- ①「書くこと」の習慣化を図ってきたが、まとめや振り返りが形式的な内容になったり、単調になったりしている。さらに児童の実態、関心に応じた授業づくりをし、分かる楽しさを味わわせる必要がある。
- ②家庭学習の習慣化を図ったが、個人差が大きい。さらに、自主学習の内容(授業とのつながりがあるか、自分のやるべき内容に合っているか)の検討もしていきたい。
- ③少人数ならではの個別最適な学びの実現に向けて、教師の支援の在り方について研修をしていきたい。